

はじめに

本書は、朝日新聞大阪本社所蔵「富士倉庫資料」(写真)の東南アジア関係約5000枚の写真の裏書きなど、文字情報を入力し、一覧表にしてまとめたものである。

アジア太平洋戦争中(1941~45年)の写真については無数に存在し、戦争の実態や悲惨さを伝える貴重なものが、書籍、雑誌、博物館展示などで一般に公開されてきた。だが、それらの写真のうち、いつ、だれが、なにを、どのような状況下で撮ったのか、その来歴についてわかるものは数少なかった。「富士倉庫資料」の写真のそれぞれには、新聞社が受け入れた年月日のスタンプが捺され、撮影者・場所・年月日、キャプションなどのほか、検閲済みかどうか、掲載不許可になった場合にはその箇所や理由が書かれたものが含まれている。個々の写真にかんする情報が系統的に記載されているだけに、史料的价值が極めて高く、これまで説明がないままに公開されてきたものについても、新たな意義を与える可能性がある。

そのような認識のもとに、インドシナ(現ベトナム、カンボジア、ラオス)は菊池陽子(東京外国語大学)、タイは加納寛(愛知大学)、ビルマ(現ミャンマー)は根本敬(上智大学)、マラヤ(現マレーシア、シンガポール)は左右田直規(東京外国語大学)、東インド(現インドネシア)は舟田京子(神田外国語大学)と姫本由美子(トヨタ財団)、フィリピンは早瀬晋三(早稲田大学)が、それぞれ分担するかたちで、写真を整理する作業に着手した。また、それらの作業の中間成果を持ち寄って検討する研究会を、通算10回にわたって実施した。研究会では、それぞれの国・地域ごとに関心をもつ方々にも随時出席していただき、写真1枚1枚を検討し、不鮮明なものを点検し、内容について議論した。

それらの成果について、2016年6月5日に大阪大学豊中キャンパスで開催された「東南アジア学会第95回研究大会」で中間報告として発表し、会員から貴重なコメントをいただいた。その様子は、翌朝『朝日新聞』大阪市内版で紹介された。また、各分担者の論考が『アジア太平洋研究』(早稲田大学アジア太平洋研究センター)に掲載された。今後も掲載予定で、掲載されたものは早稲田大学リポジトリ <http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/> からダウンロードできる。

早瀬晋三「日本占領・勢力下の東南アジアで発行された新聞」『アジア太平洋討究』第27号(2016年10月) pp. 61-100.

姫本由美子「日本占領下のインドネシアをめぐる「報道」と「宣伝」のはざま—朝日新聞社所蔵写真を手掛かりに—」『アジア太平洋討究』第28号(2017年3月刊予定)

朝日新聞大阪本社編集委員の永井靖二さんには、これらの「秘蔵写真」が「再発見」された2006年以来、いろいろと便宜をはかっていただき、また今回のようなかたちで「富士倉庫資料」を利用するにあたって、格別のご助力をいただいた。永井さんのご理解と協力なしには、共同研究も本書の発行も不可能だった。永井さん以外にも多くの朝日新聞社の方々の

お蔭で、作業をスムーズにすすめることができた。また、新聞社内でおこなった面倒な資料の整理には、元大阪市立大学大学院生片山須美子、早澤茂さんの助力を得た。文字情報の入力にあたっては、各国・地域それぞれの分担者のもとで、赤崎真耶、加藤沙恵、悴田智子、高地薫、寺井淳一、福田尚哉、松岡昌和、山口真央、山崎美保、山端美咲のみなさんに補佐していただいた。このように多くの人びとに支えられて、研究をすすめることができた。みなさんに感謝し、お礼を申し上げます。

なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）一般（課題番号26284111）平成26～29年度「植民地史を書き換える—東南アジアの日本占領行政からみた欧米植民地支配」（代表：早瀬晋三）および科学研究費基盤研究（A）一般（課題番号25243007）平成25～29年度「第二次世界大戦期日本・仏印・ベトナム関係研究の集大成と新たな地平」（代表：白石昌也）によって可能になった。

本書が有効に利用され、アジア太平洋戦争に関連した東南アジア研究が発展することを願っている。

2017年3月

早瀬晋三・白石昌也